家庭教育コラム
必見！！家庭教育のススメ
令和６年２月　No.9
高松市教育委員会生涯学習課

学校と地域のいい関係

早谷川　悟（家庭教育応援講座講師　栗林おやじ塾代表）

私がコミュニティ・スクールに出会ったのは今から約 20 年前。千葉県習志野市秋津で「おやじの会」を立ち上げ、活動していた岸祐二さんと出会って色々話を伺った時に、コミュニティ・スクールの事を話してもらいました。岸さんは地元の小学校のお父さん方と一緒に学校の飼育小屋の修理をしたり、運動場の片隅にビオトープを作ったり、やがては学校で授業の協力をしたりして、まさに今、全国で発足しているコミュニティ・スクールの原点とも言える活動に取り組まれていました。私は岸さんに出会ってから、いつかは我々の地域にもコミュニティ・スクールを立ち上げようと考えるようになりました。私も地域でおやじの会を立ち上げて、子ども達の活動支援を行いながら、学校との関係を築いていき、2018 年にコミュニティ・スクール（高松型）を発足させました。

貸し借り関係の見直し

地域で活動をしていると、地元の学校にお願いすることが多々あります。また、学校も地域にお願いすることが色々あります。これまでは、学校から各種団体に個別にお願いをしたり、また、各種団体から学校にお願いをしたりするのが普通でした。

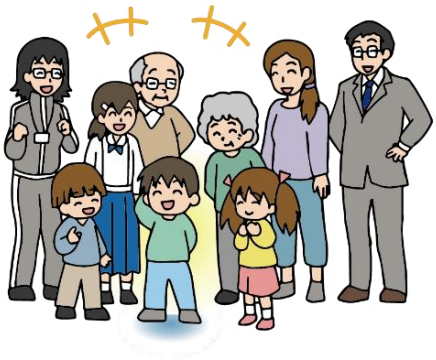
コミュニティ・スクールは、この「貸し借りの関係」を一元化して、学校運営協議会という組織で取りまとめることで、学校と地域をスムーズかつ効率的につなげることができます。

学校と地域　Win-Win の関係

学校の先生方は以前に比べてやらなければいけない事が増えていると感じます。先生方と話をしていると、「こんな事は地域の人でお手伝いできるのでは？」と思う事もたくさんあります。例えば、登下校の見守り活動、学校の環境整備、学校施設の保守点検等、まだまだたくさんあります。また、地域の人は学校、子ども達に関わりたいと思っている方は沢山います。学校は地域の人に関わってもらいたい。地域の人は学校に関わりたい。この事をマッチングすればまさに学校と地域の Win-Win の関係になるのではないでしょうか。

必要なのは普段のコミュニケーション

私は、24 年前から毎朝小学校の正門前で子ども達と朝の挨拶をしています。そこには、日直の先生も一緒に立ちますので、毎日違う先生方と会話をしています。毎朝の会話の中でお互いの情報交換をする事で活動のヒントになることもたくさんあります。大切なことは、やはり普段のコミュニケーションだと思います。



「昔は地域みんなで子どもを育てていた」、なんて言葉を聞くようになって久しい今だからこそ、保護者や地域住民そして教職員で「子どもたちがどう育ってほしいか」ビジョンを共有し、一体となるコミュニティ・スクールの重要性は高まっていると思います。学校と地域で、お互いに無理をすることなく、常にコミュニケーションをとりながら連携・協働できるいい関係を築いていきませんか。

【コミュニティ・スクールとは】

学校運営や必要な支援に関する協議を通して、学校と地域が目標やビジョンを共有するために学校運営協議会を設置している学校のことを、「コミュニティ・スクール」といいます。（高松市では令和５年度から全市立小中学校に学校運営協議会を設置しています。）